

製品名: CDK5 (リン酸化Ser159) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05686**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	32kDa

抗原情報

遺伝子名	CDK5
別名	Cyclin-dependent kinase 5 (EC 2.7.11.22) (Cell division protein kinase 5) (Serine/threonine-protein kinase PSSALRE) (Tau protein kinase II catalytic subunit) (TPKII catalytic subunit)
遺伝子 ID	1020.0
SwissProt ID	Q00535
免疫原	ヒト CDK5 由来の合成ペプチド（リン酸化Ser159）

背景

触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能: 細胞周期の制御に関与していると考えられる。D1 型および D3

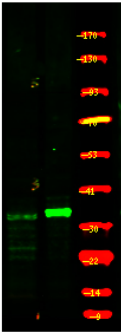
型 G1 サイクリンと相互作用する。ヒストン H1、タウ、MAP2、NF-H、NF-M をリン酸化できる。また、キナーゼを活性化する p35 とも相互作用する。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。CMGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。CDC2/CDKX サブファミリー。、類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、細胞内局在: 軸索成長円錐に存在し、末梢のラメリポディアまで伸展する。、サブユニット: 触媒サブユニットと調節サブユニット (p35) のヘテロ二量体。CABLES1 および ABL1 と三分子複合体を形成する。CABLES1 と相互作用する (類似性による)。AATK と相互作用する。、

研究分野

細胞生物学

画像データ

1 2



マウス肺組織のウェスタンブロット分析。一次抗体は 1:1000 希釈。二次抗体は 1:10000 希釈。